

## 金沢伝統箔の伝統技術保存継承事業—金箔職人から技と系譜の聞き取り

金沢金箔伝統技術保存会

松村謙一（会長）

坂本善昭（記録者）

### 事業主旨

金沢伝統箔は、400年以上の歴史を持ち、まさに金沢を代表する伝統産業として全国シェアの99%を占めています。しかし、歴史と共に歩んできたこの伝統技術も、今や生活様式の変化や昨今の厳しい経済状況の中で苦境を強いられ、急速に衰退の一途をたどっています。実際、その伝統技術を保存する職人の数は、十数年前に比較すると3分の1まで減少し、しかも平均年齢が60代後半となってきています。

そこでは、今まで受け継がれてきた技術の質的保存と継承をはかることが何よりも急務となっております。とりわけ、金沢伝統箔を支えてきた高度な技が、視点を変えるとそのまま職人独自の修練と創意のたまものであり、決して一様のものではないところに貴重性があります。さらには、それらを次世代に後継する人材育成に大きな責務が生じているところでもあります。

こうした事態をかんがみ、現在いる職人から聞き取り調査を行い、現状の中でより多くの技術的精度と継承の系譜をたどって記録保存し、また将来に向けて活用するための資料づくりを進めることを本事業の目的とします。

### 事業内容

技の聞き取り調査実施にあたっては、細分化された技術を明確にして継承することに重きを置き、本年度は5人の職人から1人約2時間程度の聞き取り調査を実施しました。聞き取り内容は下記に示す通り技術を中心に行いました。

調査の期間 平成22年8月1日～平成23年3月31日

聞き取り内容

1. 名前・生年月日
2. 生まれた町及び現仕事場の住所
3. この仕事に携わった理由と勤続年数
4. 技術を学んだ師匠及び兄弟子や同胞など
5. もっとも多忙だったころの仕事の様子
6. 主に使用している打ち紙と紙仕込みにかかる時間
7. 灰汁の焚き方
8. テカズの入れ方、紙の乾かし方
9. 一灰汁で打つ箔の本数

## 10. 自分だけの技術的工夫及び仕事へのこだわり

### 聞き取り調査対象

- 1 安江 一さん 淑子さん
- 2 新木 昭さん
- 3 石崎清隆さん
- 4 小林富美雄さん
- 5 今本忠昭さん

### 事業成果

本年度は金沢における箔打ち業の概括的な内容を各みなさんにお話いただきました。その結果、藩政期以降の製箔状況では、当初は銀箔製造が主流であったことがうかがえました。

また、三浦彦太郎氏による箔打ち機械の開発により、かなり早い時期から機械が導入され、まちの随所に設けられた共同作業場では機械の借りが行われていました。ここでは職人が頼りとする技術的技量が、いやおうなく周知される場所もあり、年季の浅い弟子たちにとっては先輩の技術を盗み見て習う、好機の間でもありました。

金沢市内では、城を中心にした武家主体の町割が明治以降も残され、職人の住まいは浅野川と犀川に近い町域に点在していたようです。さらには幕末から明治にかけて頃に、下級藩士たちも生業として箔打ち職人になったという話もありました。

箔製造では、昭和戦前から次第に金銀など貴金属資材への統制が厳しくなり、それに変わるものとしてアルミ箔の製造が盛んになりました。そして戦後は美術工芸などへの供給もあって金箔・銀箔製造が再び隆盛してきました。とりわけ金箔を大きく支えてきたのは仏壇製造業界で、その微妙な輝きを求めるところが箔打ち技法にいつそうの創意と工夫をもたらしました。その結果、職人間での技術的な情報交換や、仕込みの段階での紙や柿渋に対する知識の共有などが一部に見られました。

### 今後の課題

金銀箔を中心にした、業界の足跡や人的記録、技術のさまざまなケース展開などが相当に四散している様子がうかがえます。おおむねは各職人さんの住まいや仕事場などに温存されているものと思われます。今回の調査を通してもっとも感じられるのは、技法や知識などが個々に確立されており、どの一つも必要な情報として整理保管されることが望ましいと思われました。次第に数少なくなる現役職人さんから、より積極的に聞き取りを重ねつつ、こうした情報の集積と整理が大きな課題に思われます。